



さとやま 2020年 夏号 (通巻 151号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町 489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600 fax029-874-6812
<http://ushiku-satoyama.org/>

■編集 木谷昌史

さとやま

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌 No.151

1. 表紙 (アブラゼミの幼虫)
2. 牛久の外來植物
3. お知らせ
- 3~6 プロジェクト活動報告
6. 裏表紙 (樹液に集まる昆虫達)



1. 開花期のブタナの株
(2017.4.22 ひたち野おやま公園 渡辺)



2. 根生葉 (2013.5.30 渡辺)



3. 結実期の頭花の一部 (2013.11.3 渡辺)
①花床の鱗片 (左下)
②そう果 (細長い部位) と冠毛

牛久の外来植物 14.

ブタナ (豚菜) 秋山 侃

ヨーロッパ原産、キク科の多年草でほぼ世界中の畑地、路傍、空き地、芝生などに生育し、時に大きな群落を形成します。日本では1933年に札幌で最初に確認され、現在でも北日本に多く分布しています。元は飼料穀物に種子が混入したと思われる。当初タンポポドキと命名されましたが、翌1934年、神戸でも確認、ブタナと命名され、現在はこれが主流の名称となっています。

葉はすべて根生し濃緑色で厚く、倒披針形で長さ6-11cm、幅1.5-4.5cm。縁は不規則な鋸歯、両面と縁に剛毛が密生します(画像2)。花茎を20-50cm伸ばし、0-3本の枝を出します。頭花の形はタンポポに似て、径2-3cmで黄色、舌状花のみで花弁の先は浅く5裂。総苞は長さ1.5-2cm、総苞片は3列で斜上します。牛久では4月から10月頃まで次々に開花、花後は白い綿毛の着いた瘦(そう)果を風に飛ばします(画像3)。

国立環境研究所によれば、生態的特性としては、土壌の種類、乾湿、肥沃度、pH等

に対する適応性は大きく耐寒性があり、平地から高山地まで生育でき、さらに刈り取りや踏みつけへの耐性も高いとしています。

ブタナは芝生などに侵入すると根を深く張り巡らし厄介な害草になるので、要注意外来生物に指定されています。本来であれば、一本ずつスコップで根を掘り起こすのが良いのですが、重労働になるため、実際にはグリホサート系除草剤(サンローンやラウンドアップ)で根ごと枯らす方法がとられています。

一方、ブタナは植物の全体が食用可能で、サラダ、茹で野菜、揚げ物などとして若い葉と茎は最もよく利用されます。味はタンポポに似ていますが、タンポポより苦みが少ないとされています。またタンポポと同様コーヒーの代替品として、根の部分を炒ってハーブティーとして飲むこともできます。

ブタナという名前は、フランス語でSalade de porc(豚のサラダ)に由来します。また、英名ではCatsear(猫の耳)といえます。

金久由美

観察の森のセルフガイドゾーンには、訪れた方が指導員のガイドがなくても自然観察を楽しめるように、簡単な言葉や絵、写真を使った解説版「森っQ」を設置しています。(Qはクイズの意)

「カワセミの池」のゾーンではカワセミに関する問題や、樹液の出るクヌギの木の前では夏の時期にはカブトムシの問題など子ども達に向けたものや、自然環境を守る問題などその場所に合った問題を取り上げて「森っQ」を作成し、1か月に1回入れ替えて整備を行っています。

構成は、問題と答えの2枚で完結方式で、問題をめくると、すぐに答えが分かるのでその場で完結します。現在、16台の「森っQ」が各ゾーンに設置されていて、はまったお子さんは、「次はどこかな」と森っQを探してどんどん歩いてくれます。という保護者の方からお話も伺います。

コロナウイルスの拡大防止で3月半ば〜6月前半までセンターが休園になった時は、来館者の方が「森っQ」を楽しみながら森を散策している姿が見られました。また先日は、森から生放送で中継された牛久FMラジオFM-UUさんで、コムラサキゾーンの「森っQ」が読まれて盛り上がっていたそうです。その問題は、「園内にはある昔の有名人の名前がつけられた樹木があります。その有名人はいったい誰でしょうか？」

①セイショウナゴン ②ムラサキシキブ ③ヒカルゲンジ
正解は②のムラサキシキブです。

丁度園路沿いで薄紫の花が開花していたので観察してもらおう為に作成した問題でした。

問題作りには現地の観察がかかせません。これからも自然の楽しさ、不思議さや、関心をもっと深まるように問題作りに一層努めてまいります。

北寺 雄一

コロナ集団感染防止のため4月から活動を自粛中でしたが、ようやく6月7日より今年度初の活動再開となりました。とは言え、まだ収束には至っておりませんので、マスク着用、密接を避け、弁当持参での活動です。

今回は梅林の下草刈りですが、動線は前もって自発的に、草刈りを実施して下さった会員の方のお陰で、歩行できる状態でした。その他の部分は2か月間手を加えなかったことにより、雑草が伸び放題でしたが、普段気づかないところで新たな発見等もありました。例えば、ベンチ脇にホタルブクロが自生しており、白い花がとても可憐でした。開花期が梅雨なので別名「雨降り花」とも言われるそうです。名前の由来は色々な説があるようですが、私はどうしても「茹でたホタルイカ」を連想してしまいます。また、花には自家受粉を避けるために性別があるそうで、開花直後はオス、開花後時間が経過するとメスに変わるようです。身近な植物でも奥深さを感じました。

草刈作業は有識者による貴重な植物への印付け(刈らないようにするため)を行った後に実施しました。ネイチャーセンターよりハンマーナイフ(2台)を借用し、計3台+刈払い機数台で半日掛けて作業は完了しました。作業中にハンコチョウ(カノコガ)が例年より多く見られ、弱々しく飛び交うので少々申し訳なさを感じながらの草刈でした。

整備された梅林は里山らしさが戻り、やはり気持ちが良いものです。ただ残念なことに、自粛前は見事な花を咲かせた梅林でしたが、殆んど実を結んでなく、楽しみは来年に持ち越しとなりました。



2. 牛久市所管の公園等に生育する牛久の絶滅危惧・希少木本植物 (2020年5月現在)

No.	種名	牛久自然観察の森	南裏市民の森	ひたち野みずべ公園	上池親水公園	下根運動公園	根古屋調整池周囲	城中調整池周囲	牛久調整池周囲	ひたち野東調整池周囲	牛久市観光アヤマ園
1	アカシデ	○ ²⁾									
2	アキグミ	○		○							
3	アラカシ	○ ²⁾		○ ²⁾							
4	イスノキ				○ ⁴⁾						
5	イヌシデ	○ ²⁾		○ ²⁾							
6	カクレミノ		○ ^{5?)}								
7	キブシ	○ ²⁾									
8	クスノキ	○ ²⁾	○ ^{2?)}								
9	クマノミズキ	○			○						
10	クロウメモドキ	○									
11	コマツナギ	○ ³⁾									
12	タブノキ	○ ²⁾³⁾									
13	トウゴクミツバツツジ	○ ²⁾									
14	マキエハギ	○ ³⁾									
15	ミヤマガマズミ	○ ²⁾									
16	ヤマツツジ	○ ²⁾³⁾									
17	ヤマボウシ	○ ²⁾									

注.3) 自生種も記録されていることを示す。4)「茨城県植物誌」に記載がなく、植栽樹と思われる。5)植栽樹の逸出。

お知らせ

チェーンソー講習会 (補講) 開催のお知らせ.....事務局

里山の会では、令和2年8月27日(木)チェーンソー講習会(補講)を行います。受講対象者は、伐木等業務特別教育(安衛則36-8)を修了している会員もしくは、会で実施した上記の講習修了者が対象となりますのでご注意ください。

日時：令和2年8月27日(木)午後1時30分～4時
 会場：牛久市福祉センター第3会議室
 受講料：1100円(テキスト代含む)
 定員：7名

受講希望の方は、NPO法人うしく里山の会事務局(木谷)までお知らせ下さい。

第16回通常総会のご報告.....事務局

令和2年5月20日(水)9時から第16回通常総会を牛久自然観察の森ネイチャーセンターで開催いたしました。議案書に記載してあった全ての審議事項は、全て承認されましたのでご報告いたします。

プロジェクト活動報告

結束町みどりの保全区「エコアップ」作戦活動報告.....木谷 昌史

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。
 自粛していた活動も6月から再開することができ、8月までに2回、皆さまと雑木林の元で一緒に汗を流すことができました。活動場所から離れている間に草丈はぐぐっと伸び、自然の移り変わりを感じた次第です。次回は秋、涼しくなることに再び集まりたいと思います。



草集する様子(雨上がりで草が重い)



作業後の様子(見通しがよくなり気持ちがいい)



1.イカリソウ「牛久の準絶滅危惧種」
牛久自然観察の森 2018.4.1

1.キバナアキギリ「牛久の準絶滅危惧種」
南裏市民の森の土手 2013.11.11

3.ジョウロウスゲ「牛久の希少種」
城中町調整池水路 18.5.13

4.オガルカヤ「牛久の希少種」
牛久運動公園調整池A土手 2013.10.22

<牛久市協働牛久市版レッドデータブック追補版調査検討メンバー世話人 渡辺 泰>

牛久市所管公園等の管理についての植物種多様性保全に係る提言

牛久市協働牛久市版レッドデータブック追補版調査検討メンバー世話人 渡辺 泰

牛久市では市域の自然環境保全や生物多様性保全を図るための施策の一つとして、県内の地方自治体では先駆的取り組みとして2006年、『牛久市版レッドデータブック 牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編普及版>』を発刊し、生態系や景観の保全並びに市民への情報提供・啓発に努めてきました。冊子発刊後10年が経過していることから2017年度環境審議会において、その見直しの提案がなされました。

これに基づいて2017年10月牛久市建設部都市計画課と当りしく里山の会との協働事業を立ち上げ、牛久市版レッドデータブック追補版調査・検討メンバーによる調査チームを設置し事業を推進しました。2020年3月牛久市の計上予算により、『牛久市協働事業牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編普及版>追補版調査報告書』(注1)および『牛久市版レッドデータブック追補版牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編普及版>』(注2)が発刊されました。

当初計画では2019年度終了の予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため報告会が2020年6月11日まで延期されました。足掛け4年の本協働事業および既往の当りしく里山の会の調査事業を通して、次のようなことが分かりました。

『牛久市版レッドデータブック追補版牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編普及版>』に掲載されている植物が別紙のように、牛久市所管の牛久自然観察の森をはじめとして、公園や調整池・牛久市観光アヤマ園等に多数生育しており、これらの場所がその設置目的以外に植物の生物多様性保全の隠れた機能を果たしていることが判明しました。このことから、絶滅危惧・希少植物の生育する公園その他を所管する関係部署間で、これら植物の保全に係る情報を共有化すると共に、公園等の草刈管理業務実施者・委託者に対し絶滅危惧・希少植物の開花結実前刈取りを回避するため、下記のような提言を牛久市長あてに行うことを6月11日の報告会において申し合わせましたので報告いたします。

(注1) 牛久市協働事業牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編普及版>追補版調査報告書・追補版植物調査チーム

(注2) 牛久市・版レッドデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編普及版>牛久市版 RDB 追補版編集委員会

令和2年6月11日

牛久市長 根本 洋治 殿

牛久市版 RDB 植物編普及版追補版
調査検討メンバー 一同

牛久市所管の公園等に生育する希少植物保全に係る提言

牛久市版レッドデータブック植物編普及版の追補版発刊に備えた牛久市と NPO 法人うしく里山の会との協働調査事業において、牛久市所管の牛久自然観察の森をはじめ、公園や調整池・牛久市観光アヤマ園等に牛久市の絶滅危惧・希少植物が多数生育しており(別紙資料)、これらの場所がその設置目的以外に植物の生物多様性保全機能を果たしていることが判明いたしました。

牛久市における植物種の減少・絶滅の背景には、①土地の開発利用による生育場所の消失、②林地や草地の管理放棄に伴う生態遷移による草本植物の駆逐、③水田区域の耕地整理による乾田化と稲作の技術革新による湿生植物の生育環境の変化、が主な要因としてあげられます。

これらの背景下で牛久市所管の公園等公共用地には、絶滅危惧・希少植物の生育が可能な場所があり、適切な管理がなされています。引き続きこれら植物の保全を図るため、下記のようなご提案を申しあげます。

記

1. 絶滅危惧・希少植物の生育する公園その他を所管する関係部署において、これら植物の保全に係る情報の共有化を図ること。
2. 公園等の草刈管理業務実施者・委託者に対し、絶滅危惧・希少植物の開花結実前刈取りを回避するための要請を行う

別紙 1

1. 牛久市所管の公園等に生育する牛久の絶滅危惧・希少草本植物 (2020年5月現在)

No.	種名	牛久自然観察の森	南裏市民の森	ひたち野みずべ公園	上池親水公園	下根運動公園	根古屋調整池周囲	城中調整池周囲	牛久調整池周囲	ひたち野東調整池周囲	牛久市観光アヤマ園
1	アスカイノデ	○ ¹⁾						○			
2	アズマツメクサ										○
3	アリアケスミレ				○						
4	イカリソウ	○									
5	イチヤクソウ	○									
6	イチリンソウ	○									
7	ウシウサ	○									
8	ウワバミソウ	○									
9	エナシヒゴクサ				○						
10	エビネ	○									
11	オガルカヤ					○					
12	オニスゲ				○						
13	オミナエシ	○									
14	カスマグサ			○							
15	カタクリ	○ ²⁾									
16	カラスノゴマ								○		
17	カリガネソウ	○									
18	カンガレイ				○						
19	キチジョウソウ										
20	キツリフネ	○ ²⁾									
21	キバナアキギリ		○								
22	キンラン	○	○								
23	ギンラン	○	○								
24	クサソテツ	○ ²⁾									
25	クマツヅラ						○				
26	クララ	○									
27	コバノカモメヅル				○						
28	コマツカサススキ				○						
29	コヤブタバコ	○	○								
30	ササクサ	○									
31	チョウジソウ ²⁾										
32	ジョウロウスゲ							○			
33	ツクバキンモンソウ	○ ²⁾									
34	ツクバトリカブト	○									
35	ツボクサ										○
36	ツリフネソウ	○									
37	ナルコユリ	○	○								
38	ニリンソウ	○									
39	ハッカ			○	○						
40	ハネガヤ	○									
41	ハバヤマボクチ	○ ²⁾									
42	ハンゲショウ	○			○						
43	フデリンドウ		○	○							
44	ママコナ	○									
45	ミコシガヤ			○	○			○			
46	ミヤマウズラ	○									
47	ムシクサ			○	○						
48	ムラサキニガナ	○									
49	ヤブレガサ	○									
50	ヤマタツナミソウ	○									
51	ヤマニガナ	○									
52	ワニグチソウ	○									

注.1) 観察の森には植栽4種を含め37種のシダ植物が記録されており(田中他(19979:牛久自然観察の森 環境調査報告書II)、6種が牛久市版RDBに掲載されている。アスカイノデとクサソテツは現在も認められるが、イノデモドキ・イワヒメワラビ・ヒメワラビ・ヘビノネゴザは未確認である。

2) 植栽であることを示す。